

# 歴史散歩

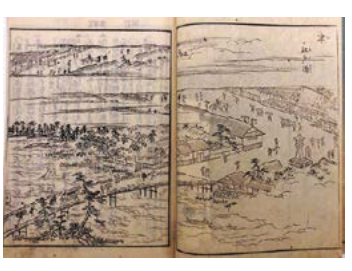


## 江戸橋 今昔

5年にわたり、架け替え工事が行われていた江戸橋が、今年5月30日に全面開通しました。新しい江戸橋は、車道と自転車歩行者道が拡幅・整備されて、通行する全ての人々が安心して渡れる橋となりました。

江戸橋の名称には次のようないわれがあります。江戸時代、津藩主が参勤交代で江戸へ向かうとき、この橋を渡ればすぐ紀州藩領となり、ちょうどこの辺りが藩境となる場所でした。藩士の見送りもここまでとされ、江戸への第一歩となるという意味で、江戸橋と名付けられたと伝えられています。

この橋の姿は、寛政9(1797)年に刊行された「伊勢参宮名所図会」に挿絵で描かれています。橋を往来する旅人が描かれ、道に面して人家が立ち並び、なかなかのにぎわいだったことがうかがえます。江戸橋西詰めは、四日市の日永の追分で東海道から分岐した伊勢街道と、京都方面から関で東海道から分岐した伊勢別街道が落ち合う交通の要所でした。



しかし、江戸橋が最初に架けられた時期は、はっきりしていません。この橋の架け替えや修理の記録は極めて少なく、「津市史」にわずかに記録が掲載されているのみです。その最初は、「延宝6(1678)年7月2日普請始め、4日杭立仕廻、土橋也、11日出来、長さ24間、幅2間(後略)」とあり、木の橋の橋面に土をかけてならした土橋であったことや、わずか10日間の

工事で出来上がっていることが分かります。次にその約50年後の享保14(1729)年、寛政7(1795)年に架け替えが行われ、江戸時代の江戸橋に関わる記録はこの3回のみです。

明治時代以降では、明治11(1878)年に土橋から板を橋面とした板橋に架け替えられています。その後、昭和32年12月に架け替えられ、この度の架け替えまで、昭和から平成へと約57年間使われてきました。

江戸時代、旅人や馬やかごで行き来する人々が描かれていた江戸橋は、現在では、広くなった橋を歩行者のほか、自転車、自動車がひっきりなしに行き来しています。令和元年、新しい時代に新たな江戸橋の歴史が始まりました。



おわび 広報津7月16日号19ページに掲載しました「歴史散歩158 旧伊勢本街道と多気」の地図中の表記に誤りがありました。正しくは「飼坂峠」です。おわびして訂正します。